

令和4年度 県立伊奈特別支援学校 自己評価表

目指す学校像	<ul style="list-style-type: none"> ◆子どもが笑顔 教員が笑顔 笑顔輝く学校 ◆子どもが主体的に活躍できる学校 ◆特色ある学校作りと地域貢献できる学校 		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>・「児童生徒の学びの質を高める授業実践」をテーマに授業研究を行い、特に自立活動の目標設定における流れ図の作成をとおして自立活動において指導すべき課題および具体的な指導内容を設定するとともに、自立活動の視点を取り入れた各教科の授業実践を行った。一方で、各教科の目標設定や評価と自立活動を関連させることで、分かりにくく、混乱した職員もいた。</p>	<p>子どもの能力を育む授業改善</p>	<p>①単元における「何ができるか」「何が身に付いたか」を明確にした授業の実践 ②ICT機器を活用した指導力の向上と環境整備の推進 ③教科の見方考え方を押さえた目標設定と評価の充実 ④主体的に取り組む教員研修の企画と資質の向上</p>	<p>A</p>
<p>・校内外での体験的な学習や見学は一部制限があったが、作業学習の製品販売を保護者向けに販売したり他学部の様子をオンラインで視聴したりして学習を行った。今後もカリキュラムマネジメントの視点に立った適切な教育課程の運用を進めるとともに、コロナ禍における現場実習の実施や小学部段階からの系統性を保ったキャリア教育の実践を行っていく必要がある。</p>	<p>自立と社会参加を目指すキャリア教育の推進</p>	<p>⑤小中高の系統性のある学習活動とワクワクする教育活動の展開 ⑥学校内外におけるスポーツ・文化活動と主体的な児童生徒会活動の展開 ⑦関係機関と連携した進路学習やキャリア教育の充実 ⑧外部専門家との連携による自立活動の目標の明確化</p>	<p>B</p>
<p>・新型コロナウイルス感染症対策のための手洗いや手指消毒、学級単位等の少人数指導が定着した。また、いじめの早期発見・対応のため実施したアンケートにより、児童生徒の心理的影響や行動面の変化についても把握でき、部や学年で対応した。引き続き新たな生活様式による学校生活や授業実践を行うとともに、いじめや体罰を見逃さない学校風土をより一層醸成していく必要がある。</p>	<p>健康で安全・安心な教育環境の整備</p>	<p>⑨児童生徒への目配り・気配りを徹底した学級・学年経営 ⑩新型コロナウイルスへの適切な対応と健康安全教育の推進(医ケア・食育・ヒヤリハット等) ⑪いじめや体罰を見逃さない教育環境の構築と人権を意識した言語環境の整備 ⑫関係機関と連携した防災体制の確立と安全な通学指導の確保</p>	<p>A</p>
<p>・来校相談や体験入学の際は授業体験や参観に替えて、スライドや動画等による個別の説明とし、学校間交流は直接的な交流から掲示物や美術作品の交換等に替えて継続した。今後はオンラインでの研修会実施等、相談支援の充実に努めるとともに、本校教育活動を公開・発信したり、ICT機器を効果的に活用した交流形態の検討を進めたりしていく必要がある。</p>	<p>地域に開かれた学校づくり</p>	<p>⑬特色ある学校作りと地域とともにある学校の在り方の検討 ⑭地域の特別支援教育のセンターとしての役割と校内支援の充実 ⑮間接交流やICT機器等による交流及び共同学習の工夫と改善 ⑯PTA活動による進路情報の発信と同窓会活動の工夫</p>	<p>B</p>
<p>・会議資料や配付物の印刷等をスクールサポートスタッフへ分担し、教材研究や授業準備に費やす時間の確保に努め、放課後の諸会議においても、議題ごとに時間を割り振り、退勤時刻までの終了を概ね達成している。引き続き授業準備や校務をより効率良く行うための教材教具等のデータベース化や校務マニュアル・各種様式等の整備を進めていく必要がある。</p>	<p>服務規律の遵守と働き方への意識改革</p>	<p>⑰各自の業務管理と仕事の進め方の工夫改善 ⑱信頼される教員としてのコンプライアンス意識の向上 ⑲会議の効率化、学校行事の見直し、業務の進め方。ペーパーレス化等の工夫と改善 ⑳仕事と生活の調和と人間力の向上(ワークライフバランスの推進)</p>	<p>A</p>

※評価基準(県教育委員会) A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

◆ 校務分掌 A:十分達成できている。 B:達成できている。 C:概ね達成できている。 D:不十分である。 E:できていない。

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題と次年度への改善策	
各教科・領域	日常生活・遊び	教材データベースを活用し、教材教具の有効活用を促す。	<ul style="list-style-type: none"> データベースを整備し、職員にも周知する。 年間2回程度、整理整頓、所在の確認や点検をする。老朽化している教材・教具に関しては、処分を検討する。 	②⑩	B	<ul style="list-style-type: none"> 物品の名称と保管場所をデータベース化してTeamsのファイルに掲載することができた。使用頻度の低い古い教材が多教あり、管理場所の確保が課題。
	生活単元・総合	教材データベースを活用し、教材教具の有効活用の周知と、すぐに活用できるよう整理する。	<ul style="list-style-type: none"> 年2回程度教材教具の所在確認と整理整頓をする。 Teamsに教材データベースを掲載し、活用場所と有効活用の周知をする。 	②⑩	B	<ul style="list-style-type: none"> Teamsでデータベースと貸出簿を写真入りで掲載し、教材の種類や保管場所を周知することができた。所在不明の教材や保管場所が分かりづらいものもあったため、教材管理や貸出簿の活用方法を工夫していく必要がある。
	作業学習・職業	教材データベースを活用し、教材・教具の名称や使用方法など有効活用を促す。 畑の使用割り当てを各部主事・中学部・高等部作業班チーフと確認し、調整して周知し共通理解を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 年間2回教材整理を行い、所在の確認や点検をする。老朽化している教材・教具に関しては、処分を検討する。教材・教具の写真や名称・使用方法を記載したラベルを保管場所付近に掲示していく。 年度始め・学期始め・学期終わり・年度終わりに、使用中・使用予定箇所を各部主事・チーフに確認する場を設ける。教材データベースに畑の使用割り当てを提示して共通理解を図る。 	④⑬⑰	B	<ul style="list-style-type: none"> 今後も継続して作業学習を行う教室の教材整理など、所在の確認や点検を実施する必要がある。 年3回程度、畑の割り当てを確認する。 また、各作業班の教材の使用手法や製作している製品等を共通理解する場を設ける。
	国語・外国語	教材データベースを活用し、教材教具の有効活用を促す。 漢字検定に積極的に取り組めるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 各学会やTeams等で教材データベースの周知を行う。また、年2回教材室の整理整頓を行い、必要な教材がすぐに見つかるようにしておく。 漢字検定に積極的に参加してもらえるように各学部全てで連携して取り組む。 	④⑩	C	<ul style="list-style-type: none"> 教材室の配置場所に写真入り名札の提示とTeamsに貸出簿を掲載し、教材の周知を行うことができた。引き続き、漢字検定についても周知を行っていきたい。
	算数・数学	貸出簿をファイル化することで貸出し状況が把握しやすい環境を整える。	<ul style="list-style-type: none"> 教材教具ごとに貸出日、返却日等貸出情報を記載する貸出簿を作成し、過去の使用履歴が分かるようにファイル化する。 	④⑩	C	<ul style="list-style-type: none"> 貸出しファイルを活用した教材教具の管理を徹底する。貸出しファイルを分かりやすい場所に配置し、職員が教材教具を活用できる環境づくりを行う。
	音楽	楽器及び教材の管理及びデータベースの整備を行い、教材教具の有効活用を促す。	<ul style="list-style-type: none"> 音楽室2ヶ所の楽器の割り振りを行う。 特別棟音楽室の楽器は、保管場所に写真等を貼り、視覚的に分かりやすくする。 データベースを整備し、職員にも周知する。 	④⑩	B	<ul style="list-style-type: none"> 楽器だけでなく、音源や動画等のデータベースの整備をし、すべての職員が活用できるようにする。
	図工・美術	教材・教具の存在を周知して、全職員が簡単に教材の保管場所や使用方法を把握できる教材データベースを作成する。 校内作品展示の充実を図るとともに、校外の作品展や公募に積極的に出品できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 特別棟1階の教材室が多目的トイレの設置によりなくなる予定なので、教材の保管場所について9月までに決めるとともに、絵画・版画・デザイン・工作・展示別に教材のデータベースを作成する。 校内における作品展示の充実を図る。校長室前の廊下をはじめ、管理棟や各部の昇降口、階段の踊り場等、常時展示する場所の設定や作品のローテーションを行う。また、ポスターの公募や校外作品展に出品するために、各学部・学年に積極的に取り組んでもらえるように依頼する。 	④⑥⑰	B	<ul style="list-style-type: none"> 教材室備品の定期的な点検、管理、教材活用例の紹介を行い、全職員に保管場所や使用方法を周知する。 校内の図工・美術作品展示では、より見せ方を工夫した展示を行う必要がある。
	保健体育	教材の保管場所や使用方法を把握できるように、教材データベースを作成する。 各保健体育科の行事の実施について、管理職、各担当と検討を行い、感染症や安全に留意して実施できるように共通理解を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 学期末ごとに教材の保管場所の整理を行う。 各教材の保管場所に貸出簿を設置し、教材教具の所在を明らかにする。 年度初めに、各行事の担当を配置し、運営本部・主催の指示をうけ、管理職やチーフを中心に検討し、安全面や感染症対策について検討・計画を進め、企画運営を行うようにする。 	⑥⑩⑰	B	<ul style="list-style-type: none"> 今後も継続して教材データベースの作成や、貸出簿の設置を行い、教材の所在や使用方法を明らかにする。 今後も感染症対策をしながら、体育集会等の企画運営を行う。次年度以降も行事の開催方法を検討・改善しながら計画していく必要がある。
	家庭	調理室や被服室、教材教具等の衛生的な利用について、校内への周知に努める。 教材教具の保管場所を明確にし、教材教具の有効活用を促す。	<ul style="list-style-type: none"> 授業後の調理室や被服室の清掃の徹底や教材教具等の消毒などに関して、全職員に周知する。また、係で調理室や被服室の清掃や消毒、教材教具の整理を行う。 教材教具貸出し簿の使用を周知し、教材教具の所在を明らかにする。 	⑩⑰	C	<ul style="list-style-type: none"> 学期末に係で調理室や被服室の清掃や消毒を行うとともに、包丁など刃物の管理を徹底する。 今後も、教材教具貸出し簿の使用の徹底やデータベースの活用を周知し、教材教具の有効活用を促していく。

評価項目		具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題と次年度への改善策
道徳		体系的な授業計画を立てていけるように、各学部の具体的な授業内容を学校全体で共有する。	・各学年に道徳の授業での取り組みに関するアンケートを取り、学習指導要領の項目に振り分け、一覧にして学校全体で共有できるようにする。	①③	C	・係の職員が所属する学年の学習内容(一部事例)について、取り組みについてのアンケートを実施し、学習指導要領の項目に振り分け一覧にし、係の職員に周知した。学校全体での共有は来年度から行う予定。今後は、学習で活用した教材、資料などを共有していく。
	自立活動	教材の保管庫を整理整頓し、保管されている教材をすぐに見つけて活用できるように環境を整える。	・保管している教材教具の名前や写真などを保管棚に掲示し、一目で何が保管されているか分かるように整理整頓を行う。	⑰	B	・教材教具の名前や写真などを準備していた為、棚の整理整頓は素早く行った。しかし、破損して使えなくなっていた教材もあったため、教材の管理を見直していく必要がある。
企画係		児童生徒一人一人の資質・能力を育成し、将来の自立と社会参加につながる教育課程の運用と改善を行う。	・各部における教育課程の実施状況を把握するとともに、カリキュラムマネジメント推進委員会を中心に学年・学部における検討を計画的に行い、次年度以降の教育課程編成に向け見直しや改善を行う。	⑦⑬	B	・校務支援システムや個別の指導計画県参考様式導入へ向けて見直しと業務分担を明確にする。また、カリキュラム推進委員会での検討事項に基づき、計画的に見直しや改善を行う。
		放課後の会議の短時間化及び業務の効率化を行う。	・職員全体へ向けた連絡事項の伝達にTeamsの活用を進める。 ・各種研修のオンデマンド化やスクールサポートスタッフの活用により、授業準備や教材研究の時間確保を行う。 ・SDGsを取り入れた職場環境の改善、資源の有効活用、ペーパーレス化を推進する。	⑱⑳	B	・業務の優先順位や精選を行い、重要度の高い業務へ適切な時間配分を行えるよう年間を通して調整する。
庶務係		諸帳簿等の作成についての問い合わせ内容をその都度整理、周知し、諸帳簿の運用と管理を適正に行う。	・指導要録、出席簿、会計簿、修了証(出席等の状況)についての問い合わせがあった場合、マニュアルを参照しながら内容について整理し、必要に応じて説明の場を設け、記入の仕方や管理等の周知を図る。 ・マニュアルの内容について改善案が出た場合、早急に確認し、次学期、次年度に反映できるようにする。	⑰⑱	B	・諸帳簿作成上で細かい部分については、マニュアルやTeamsの投稿で確実に全職員へ周知する。 ・教室備品管理表は引き続き使用し、備品の管理を行っていく。児童生徒の掃除も徐々に始まっているため、今後は、掃除用具管理表についてもアナウンスし、活用していく必要がある。
		1学期中に管理表を作成し、各教室の備品、清掃用具の管理を適正に行う。	・備品管理表と清掃用具管理表を各教室に配置し、不足や破損があった場合、各教室の備品、清掃用具の補充を行う。	⑰⑱	B	
図書係		教科用図書の見直しをし、授業での活用を図る。	・年間2回活用状況のアンケートを実施し、適切に選定し、授業で活用しやすい教科用図書を選定する。	⑤	B	・活用状況を見て、検定本を含めた教書の見直しをしていきたい。 ・図書室の活用状況がとても良い。学校司書を配置できるとさらに良いのではないかと。
		児童生徒、職員の望ましい図書館利用を推進するとともに、図書室の再整備に伴い、図書の配架を再構築する。	・学期に1度程度、図書委員会(小・中・高)と連携し、お薦め図書の紹介等を行う。 ・図書委員会、職員間で連携し、図書室の整備を行う。	⑤	B	
交流及び共同学習係		ICT機器等を使っての交流を提案し、交流活動の充実と理解啓発を図る。	・動画の作成やオンラインを使用しての交流等、昨年度工夫した学年の実施例を担当者と情報共有する。	⑮	A	・年度初めの担当者説明会でICT機器を使っての交流の推進を呼びかけ、全学部で実施することができた。顔を合わせてコミュニケーションをとれたことは、お互いの学校でよい経験であったと振り返ることができ、理解啓発等の交流の意義を再確認することができた。
		各学年の担当者が、見直しをもって交流を進めることができるようにする。	・年間の流れや様式を一覧にして、年度初めに担当者に配付する。	⑰⑱	B	・昨年度までの資料を基にまとめた交流の流れを担当者に配布することができた。来年度はそれを基に、今年度質問のあった点などの修正を加えていく必要がある。

評価項目		具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題と次年度への改善策	
教務部	新規採用研修係等	初任者、2年次、3年次、中堅(前期・後期)研修者に対して、研究授業を計画的に実施することで、教員としての実践力を高め、課題研究の検討相談を通して教員としての研究力を高める。	・全職員の協力を得ながら、校内・校外の研修計画に基づき、密に配慮し研究授業を計画的に実施する。	①②③ ④⑤	B	・初任者や年次研の先生方を中心に、授業研究の計画、連絡、準備を進めてもらった。年次研ごとに授業研究の共通のグッズを確認、見直しし、マニュアルとともに来年度につなぐことが必要。 ・動画など、研修生が自主的に研修を進められるよう準備を進めていく。	
			・各年次研のグループをチャットでつなぎ、連絡を密にし、各グループにチーフを置いて、研究授業の運営を自主的に実践できるようにすすめる。	④⑥	B		
	現職教育係	オンラインを効果的に活用しながら校内研修を実施する。	・初めて特別支援教育に携わる職員に対して児童生徒とのかかわり方などについての研修会を若手教員研修と連携して2回行う。オンデマンドの方法を用いて対象職員だけでなく、興味のある職員も研修を受けることができるようにする。 ・サポートセンターと連携し、ケース会議の研修会を2回行う。(1回目は支援方法の検討、2回目は支援をした結果の検討)	④⑯	A	・今後も教材研修会を企画し、ベテラン教員の協力を得ながら、若手の教員の研修の機会を設けていく必要がある。 ・人権ポスターや人権メッセージについては児童生徒の応募数が少なかったため、次年度は協力学年の道德の年計に位置づけて作品等を計画的に制作、出品できるようにする。 ・特教研総会、実務担当者会議の企画・運営、事務処理等の依頼を滞りなく行うことができたので、今後は会則の変更や次年度の事務局校への引き継ぎを丁寧に行っていく。	
		人権に関する校内研修会を企画・実施し、職員の人権意識の向上を図る。また、児童生徒に対して人権ポスターや人権メッセージを募集し、校内の人権に関する意識を高める。	・夏季休業中に1回、人権に関する研修会を企画し、実施する。 ・児童生徒に人権についての理解を促し、人権ポスター、人権メッセージを募集して出展する。	④⑤	B		A
		特教研に関する他校からの問い合わせには、できるだけ即日に返答する等、他校との連絡調整を密に行う。	・特教研総会などの会議の企画・運営を行う。 ・必要な事務処理等を他校に依頼し、取りまとめる。 ・会計処理について説明し、会計簿のチェックを行う。	④	A		
	情報教育部	管理情報係	校内ネットワーク、情報機器の適切な管理・整備を行うことで、校務の利便性と安全性の確保を図る(特教研運営支援含む)。	・「機器環境」、「HP」、「データ管理」等、管理を分散化し、担当者を振り分けることによって、校内ネットワーク他、各種トラブルに柔軟に対処できるようにする。	②⑯⑰	B	・それぞれの管理業務を分散化して、担当を割り振って取り組み、学校公開等HPや各種トラブル等、柔軟に対応できているが、一部の職員に業務の偏りが出ているので、今後、分掌内での業務内容の共通理解が必要である。
活用推進		タブレット端末のアプリの一覧表を作成し、周知する。また、その中から年に3回以上、複数のアプリの紹介研修をオンデマンド配信する。	・各アプリの基本操作から授業場面での活用について、実践例を交え紹介する動画を作成し、職員にオンデマンド配信をする。 ・サポートに入っている業者や他校との情報交換を行い、活用しやすい環境設定や端末設定、活用しているアプリのインストールを行う。	③⑤	B	・アプリの紹介について、研修の動画やアプリの一覧表を作成し、閲覧できるようにした。今後も継続して、利便性の高いアプリの紹介を行い、ICTの活用を広めていく必要がある。	
生徒指導部	生活指導係	いじめを見逃さないための環境づくりに努め、いじめ防止に関する研修等を計画・実施する。	・いじめ早期発見のために、児童生徒及び保護者向けのアンケートを定期的に行う。 ・いじめに関する職員研修を年2回以上行う。 ・いじめに関するチェックシートの作成・活用を進める。	⑪	A	・いじめに関するチェックシート(リスト)については、本校の児童生徒の実態や特性の背景を踏まえたものを新たに作成中である。今後、共有・活用に向けて検討していく必要がある。	
			・係職員や乗務員、担任等の関係職員と連携を密にとり、諸問題が起きた際の早期対応や車内の換気・消毒による感染症予防に努める。また、ラインワークスを効果的に使い係職員の連絡・報告・相談を円滑にし、必要に応じて各学期に設定してある連絡協議会や添乗指導をとおして、路線や児童生徒の状況把握に努める。	⑩⑪⑫	A	・スクールバス降ろし忘れに対応するため、スクールバス安全運行マニュアルを作成した。全職員がマニュアルに沿って確実に実施できるよう研修等を行う。 ・今年度毎月実施した自力通学に関する検討委員会を適正な回数に削減して業務のスリム化を行う。	
	通学指導係	SB自力・自力通学生に向けた定期的な安全指導を行う。	・普段の指導や緊急時の際に対応できるように、担任による経路等確認や係観察等を行う。また、毎月1回、自転車安全点検表をとおして安全指導及び家庭での自転車点検を促したり、係及び担任による安全指導を年間2～3回実施したりする。	⑫	B		

評価項目		具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題と次年度への改善策
生徒指導部	特別活動係	児童生徒会役員の児童生徒が、学年、学部の枠を越えて関係を深め、主体的に活動できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒会役員の活動日を月に1度程度設定し、児童生徒集会や運動会の企画・運営について主体的に話し合いができる場を設定する。 委員会活動において、児童生徒同士で話し合いや協力をしながら主体的に活動に取り組むことができるようにする。 	⑥	A	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒会役員が生活目標を話し合いで決定する取り組みを実施した。今後は、活動の実態に合った会則になるように検討、改善していく。 児童生徒集会や児童生徒会役員選挙立会演説会などの行事を、MeetやDriveを活用することで各教室から全校児童生徒が参加できるように実施することができた。感染症対策を講じながら特別活動の充実を図るとともに、児童生徒会費の適正な運用により一層努める。
		児童生徒集会では、感染症対策を講じた実施形態のもと、児童生徒が安心・安全な環境の中で主体的に活動できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を活用し、各教室にてビデオやパワーポイントを視聴することで安全な環境で児童生徒集会が実施できるようにする。 	②⑩	B	
保健安全部	保健指導係	感染症対策により運動不足になりがちな児童生徒に対し、主体的に体を動かそうとする意識を高められるように、運動効果について知らせるとともに、狭い空間でも簡単にできる体操を紹介する。	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒が意欲的に楽しみながら体を動かせるようにスライドや動画等の内容や指導、発信方法を工夫する。 	⑩	A	<ul style="list-style-type: none"> 委員会の時数内で、保健委員の児童生徒が主体的に取り組めるように、発信内容や方法を工夫する。 ヒヤリハット関連について、年間1回以上の事例報告とし、係がまとめ、それを部会で連絡することは年間2回とする。 緊急時研修会では、実際の緊急時に役立つような様式に改善する。救命講習会に多くの職員が研修できるように、方法や内容を検討していく。
		ヒヤリハットの事例報告やヒヤリハット前に行った指導、支援内容の事例集を作成し、周知することで、けがや事故防止に関する職員のスキルアップを図る。	<ul style="list-style-type: none"> 事例報告書を年間2回(7、12月)回収することを定期的アナウンスし、事例報告を活性化する。 	⑨	B	
	医療的ケア	医療的ケアと再調理のマニュアルを随時更新しながら、教職員の研修のために活用し、担当教職員の共通理解につなげる。	<ul style="list-style-type: none"> 医療的ケア個人マニュアルは、資料の他に手元で見ることができるマニュアルも作成し、新規担当教職員の研修の際に活用するとともに、実際にマニュアルを基にして、医療的ケアの補助を行う。 	⑨⑩	A	<ul style="list-style-type: none"> 新しく申請した児童生徒について、マニュアルを作成し、活用しながら医療的ケアの補助を行っている。ヒヤリハットが起きた箇所について、特に分かりやすく明示する。 再調理について、医療的ケア係としてというよりはなのはな学級の教員として担当しており、今後の位置付けについては検討が必要。
			<ul style="list-style-type: none"> 水分量の違いによるなめらかさの違いについて研修を行い、より安全かつ美味しい再調理について検討する。 	⑩	B	
	食育係	新型コロナウイルス感染症の情報や対策について、迅速な対応が必要な場合に、児童生徒や職員、保護者に即時に周知して食の安全に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 保健指導係と連携し、給食時の衛生対策について各学部に迅速に周知できるよう連絡体制を整えて食の安全に努める。 	⑩	B	<ul style="list-style-type: none"> 食育キャンペーンのやり方を変更したが周知して円滑に実施できたので、来年度も計画的に進めていきたい。 栄養教諭による食育授業を各学部で年度初めに希望を確認し計画的に実施できたので来年度も年度当初に確認して進めていきたい。 食育だよりの内容や発行回数は年度初めに検討していきたい。 再調理食対応の申請は来年度から実施なので、その都度確認しながら進めていきたい。
		食育キャンペーンの実施や食育だよりの発行、栄養教諭による食育授業の提供など、計画的に実施して、食育教育の一層の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 食育教育の一層の充実を図るために、栄養教諭による各学年の食育授業を計画的に提供し、授業の様子を多く掲載するなど、食育だよりの内容を充実できるように努める。 	⑩	A	
安全防災係	各種災害に備えた校内体制の確立を目指すとともに、関係機関と円滑な連携を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 各災害に備えた準備をしてもらえるように、各災害のマニュアルを周知する。 	⑫	B	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練だけでは、マニュアルの周知は難しい。マニュアルを分かりやすくまとめ、各クラスに配置する。 今年度から教員も災害用備蓄を実施。災害を想定しながらさらに備蓄の充実を図る。 防災連絡会議では、会議とともに避難訓練を行い、各市の防災課や消防にも参加していただいた。会議での検討事項を基に次年度改善を図る。 	
		<ul style="list-style-type: none"> 各市、保護者、地域の方と学校の取り組みを知ってもらうとともに連携をとれるように情報を共有する場を設ける。 	⑫	B		

評価項目		具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題と次年度への改善策
進路指導部	同窓会支援	同窓会活動の活性化を図り、同窓生とその保護者から信頼され開かれた学校づくりを目指す。	・同窓会役員との連携を密にするとともに、役員会において前回の反省や課題点を互いに出し合い、次年度への同窓会に生かしていけるよう役員会を支援する。	⑬	B	・PTA総会をはじめ、コロナ禍の中今後どのような活動ができるか、役員会で検討しながら新しい同窓会の在り方を検討していく。
		今後の卒業生の受け入れをスムーズにする関係づくりの一助として、福祉施設からの注文内を円滑に行うことで、児童生徒が就労に向け、生き生きと楽しく学べる学校を目指す。	・施設関連販売の広報や周知を行い期日等の調整することで、販売をスムーズにできるようにする。	⑦	C	・今後も、同窓生と学校との繋がりを広げていくため、ホームページやブログ等で発信をしていく必要がある。
	進路支援係	近隣の福祉サービス事業所の各種内容や福祉サービスの仕組みなどについて、保護者や生徒本人が理解を深められるように積極的な情報発信に努める。	・福祉事業所ガイドブックの情報更新、HPを活用した進路指導や福祉サービスの説明、進路だよりの内容の充実などを通して、保護者や生徒本人のニーズに応えられるようにする。	⑦	B	・福祉事業所ガイドブックの情報発信の他にもHP、進路だよりの情報提供の頻度を増やす。また、進路決定までの流れについて広く周知を図る。
		各学部の教職員が求めている進路関連の知識や情報を把握し、そのニーズに応じた小集団での研修機会を設け、障害者雇用や福祉制度などについての理解推進を図る。	・教職員へのアンケートを実施し、学部、学年、コースごとに必要としている知識や情報などのニーズを把握する。 ・小集団での研修を実施し、学部、学年、コースごとに進路指導関連の活性化を図る。	⑤⑦	B	・障害者雇用の現状と課題、在学中に身に付けておくべき力などをテーマに校内研修を実施した。今後も定期的に研修を行い、進路指導に関する教職員の理解促進に努める。
学習推進部	研究推進係	深い学びにつながる授業改善に向けて、目標設定や学習評価、教材教具、ICT、自立活動の視点など教員一人ひとりの興味・関心に応じた研修を行えるよう、教員研修を企画し、実施する。	・主体的な研修に近づけるために、グループ研修の体制を整えるとともに、定期的にアンケートを実施し、教員の興味・関心を把握できるよう努める。 ・外部講師を招き、各単元における身に付けたい力・深い学び・学習評価等について指導・助言を受ける。	①③④⑤	A	・教員の興味関心に応じたグループ研修の実施は初めての取り組みにしてはうまく進んでいるが、グループの人数の設定、年休者の対応など課題も見えてきた。 ・次年度は研修スタイルが変わるが、小グループでの話し合い(情報共有)の場を設定しつつ、研修を進めていきたい。
	学習推進係	個別の指導計画等の作成・配付や年間指導計画の作成について、全職員が円滑に行うことができるように、定期的な周知を行うとともに、新様式の運用に向けて、計画的に周知を進める。	・作成・配付スケジュールや作成内容について、職員会議や学部朝会などで、随時連絡を行う。 ・新様式の書き方の手引きを作成し、運用に向けた計画と合わせてわかりやすく提示する。	⑦⑱	B	・Teamsなどを活用し周知することで、連絡時間の短縮、ペーパーレス化を図っていく。 ・今年度は新様式を周知する内容に変更点があったため提示までには至らなかったため、次年度に向けて計画を進めていきたい。
	自立活動係	自立活動連携相談にあがった対象児童生徒をもとに、背景要因を含めた実践事例を共有することで、より多くの職員が自立活動の指導に汎用できる情報を提供できるようにする。	・外部専門家の来校時には、担任と外部専門家の仲介役としてコーディネートすることで、各担任が自立活動の目標設定における背景要因の捉え方の幅を広げられるようにする。	④⑤⑧	A	・相談内容によっては、校内支援で対応できる内容もあったため、今後もサポートセンターと連携しながら、外部専門家を有効に活用していけるとよい。
		外部専門家による校内全体研修(オンライン)を開催することで、児童生徒の心理面を含めた行動の困り感や指導の困難さについて理解を深め、アプローチ方法の蓄積を図る。	・事前に校内アンケートを行い、本校の担任のニーズを把握した上で自立活動における指導力向上のためのアプローチ方法等を研修できるようにする。	④⑧	A	・手の使い方や摂食指導の基本的な仕組みについて研修することができたため、今後は心理面を含めた実態把握に役立つような研修内容を考えていきたい。
文化・スポーツ推進係	スポーツや芸術活動を通じた校内外の交流及び地域への社会奉仕活動を推進する。(校内レクリエーション、地域ごみ拾い等)	・職員との交流試合等を設定したり、卒業生チームや地域のクラブ等の案内を配付したりする。	⑥⑳	B	・卒業生チームと連携し、卒業後も活動に親しめるよう情報発信を行っている。試合結果や活動内容は定期的に学校ブログで発信していくことが課題。	
渉外	PTA行事の運営と学校及び役員相互、地区幹事長、進路研修委員の保護者との連携を図る。	・本部役員がPTA活動についての運営の内容検討を効率よく実施できるよう、SNSなどの情報手段を活用して情報の共有化を図る。 ・地区PTAの活動となる施設見学について、地区幹事と進路指導主事との連絡調整や実施にかかる文書作成、配付、回収を行う。 ・進路研修委員会として、進路にかかわる講演会の迅速な計画と円滑な運営に務める。	⑬	B	・地区会の施設見学会の日程については、学校行事と重ならないように、複数の教員で確認し決定していく。また、見学会当日の欠席や遅刻などの連絡手段や方法を考えていく。直接、地区幹事へ連絡できるような体制にする。	

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題と次年度への改善策	
サポートセンター教育	(巡回教育相談) 支援の方向性や内容について適時検証し、依頼元のニーズに沿った巡回相談をすることで、地域の特別支援教育のセンターとしての役割を果たす。	・2名体制で出向き、複数の視点からの提案ができるよう努める。教材や環境設定の画像資料をタブレットにて提示するなど分かりやすい提案に努める。感染症対策としてオンライン相談の選択肢も積極的に提示することで、依頼元のニーズに応じてタイムリーな相談を実施する。	⑭⑩⑧	A	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを巡回教育相談に持参することは、ポータブルWifiの予算がなく実践できなかった。来年度改めて予算請求したい。 ・自立活動の実践例については小中学校からのニーズがあるため、校内の実践を動画や写真データとして集め、巡回教育相談時に紹介できるとよい。 ・本校の自立活動の授業を定期的に見学することは時間の制約があり、できなかった。次年度は巡回教育相談や学校見学の対応が少ない4～5月に重点的に実施したい。 ・校内支援にあたる曜日を決めておき、より相談しやすい体制を作れるとよい。 ・小中学校の個別面談の時期に間に合うように、1学期中に本校紹介動画の配信ができるとよい。 	
	(校内支援) 支援の必要性が高いケースを把握し、ニーズに応じて継続的な観察や相談を実施するなど校内支援の充実に努める。必要時にはスクールカウンセラーや通訳等を要請したり外部機関につなげたりすることで、児童生徒や保護者へのスムーズな支援に寄与する。	・日常的に校内児童生徒の様子を巡回したり、部主事・学年との連絡を密にしたりすることで、支援が必要なケースの把握に努める。運営委員会で各学年に積極的に校内支援を活用してもらえよう1度/2～3か月の頻度で伝える。支援ニーズに応じてサポートセンターで対応したり、専門職の派遣を要請したり、外部機関と連携したりする。	⑭	A		
	(地域への情報発信) 学校紹介動画を作成し、希望校に配信して本校教育に関する情報発信を行う。	・学校および各学部について、概要や教育目標、授業や生活の様子について動画を作成し、地域の方々に知っていただけるようにする。	⑭⑩	B		
事務部	庶務	適正文書管理に努め、能率的な事務処理を図る。	・文書管理規定にもとづき、迅速適正に処理する。早急・重要な文書に迅速に対応する。		A	・文書管理規定を遵守し的確に処理を行うことが出来た。受付の停滞もなく、問題の発生もなかった。
	会計	会計の適正、効率的執行に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会に参加し財務会計知識の習得に努める。 ・法令等に基づいた、適正な執行を行う。 		A	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の財務会計研修会の参加は限定1名であったが、受講した者よりしっかりとした報告がなされ、他の職員の知識向上へと繋げることが出来た。 ・会計処理は適正に行われており、財務課検査においても指摘等を受ける事は無かった。予算管理もしっかりと行われている。
	施設管理	施設設備の良好な維持管理に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の安全確保に努め、迅速な対応を心がける。 ・中期・長期的な展望をふまえた、計画的な整備をすすめる。 	⑬	B	・施設管理等出来る範囲で、計画的に対応できている。しかし、予算に制約があるため大きな修繕等の部分に関しては、主管課への予算要求で止まっている状態である。今後は、主管課に対して早期予算化を強く要望する。
	給食	安全・安心な給食の提供に努める。	・衛生管理の向上のため、研修を実施して知識を習得し、作業の見直し、改善を図る。	⑩	B	・研修で得た知識を基に、配食方法などを改善した。次年度も引き続き衛生管理の向上を図っていききたい。

◆ 学部・学年 A:十分達成できている。 B:達成できている。 C:概ね達成できている。 D:不十分である。 E:できていない。

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題と次年度への改善策
小学部	毎日の学習に対して、やってみようという気持ちをもって頑張ることができるように、児童の発達段階や生活年齢に応じた学習内容を整理し、指導内容の充実に努める。	児童が主体的な学びに取り組むことができるように、興味・関心に基づく教材作成や授業実践を行う。また、生活年齢に応じた学習を経験できるように指導内容を工夫する。	③⑤	B	<ul style="list-style-type: none"> 年間指導計画作成や授業づくりの際に、学習指導要領を見直し、内容の系統性や評価について検討する必要がある。 S-M社会生活能力検査から明らかになった課題を、学級やグループで共通理解する時間を設定し、課題を克服していけるような授業づくりについて話し合う環境を整える。 他学年の児童との交流や、他学年の学習の様子について知る機会となる学部集会については、ICTの活用とともに、感染症対策を行いながらどのような形態で実行していくのか検討していく。 学年会や学部会、主任会における会議内容の精選や資料のペーパーレス化は継続して行う。
	さまざまな場面で、自分でできることは自分でやろうとする力を育むために、達成感や成就感を感じることができる学習場面を設定する。	自立活動の目標設定を行う流れ図やS-M社会生活能力検査などを活用し、児童の課題を明確にしなが、児童自身が実感することができる授業改善に努める。	①⑧	B	
	友達や教師など相手との関わりをもととする気持ちを育むために、直接的なものだけではなく、ICT機器も活用し、対話的なかわりをもつ場面を設定し、コミュニケーションの基礎的な力の育成を図る。	感染症予防に配慮した学習形態を工夫しながら、児童の実態に応じたコミュニケーション手段の獲得などを旨すとともに、ICT機器を活用しながら、クラスだけではなく、学年間や他学年との交流を図れるようにする。	②⑨	B	
	会議の効率化やICT機器を活用したペーパーレス化を進め、業務の改善を図る。	学年会や学部会、主任会の会議内容を精選する。また、共有ファイルを作成し、資料を電子データ化することで、ペーパーレス化を促進していく。	⑭⑱	B	
小学部第1学年	毎日継続する学習の中で「できた」という経験を積み重ねられるように、体験的な学習を取り入れながら、学習や日常生活に必要な知識や技能の基礎を育てる。	児童の興味・関心に基づき、ICT機器を活用した視覚的支援を活用したり、具体物などを操作したり体感したりできるような教材作成や授業づくりを行う。	①③⑤	B	<ul style="list-style-type: none"> さらに成功体験を積み重ねられるように、より個に応じた教材を準備したり、ICT機器やアプリケーションなどを併用しながら達成感をもてるようにする。 より多面的に実態把握するために、必要に応じてアセスメントを行うとともに、その結果を指導に活かせるように研修を行ったり、学部会などで話し合いながら学年の教員全員で共有できるようにする。 教師とのかかわりを深めながら、興味関心のある遊びを設定することで、「伝えたい」「(相手の働きかけに)応えたい」という気持ちを育て、継続してコミュニケーション手段の幅を広げる。 リモートでの交流や教材の共有を継続していく。
	一人一人の実態把握を丁寧に行い、興味・関心を高めたり、得意なことを伸ばしたりしながら、自分のことは自分でやろうという気持ちを育む。	日々の児童の活動の様子を丁寧に観察するとともに、必要に応じてアセスメントを行いながら児童の理解に努め、指導に活かす。また頑張ったことをすぐに称賛し、活動への意欲を高める。	①⑧⑨	B	
	友達や教師に「伝えたい」「伝えよう」という意欲を高めるとともに、個に応じたコミュニケーション手段の獲得を目指す。	好きな遊びや学習を十分にやりながら、教師とのかかわりを深め、「もつとやってほしい」「もつとやりたい」という気持ちを高めることで、意思の表出を促したり、個に応じてICT機器等を活用したりする。	②⑤⑨	A	
	ICT機器等を活用しながら授業計画や授業内容などの共通理解を図り、連携して支援に努める。	学年会等で授業づくりについて話し合うとともに、データ化された資料や教材等を活用しながら授業内容や支援方法などの情報交換や共通理解を図る。	⑰⑱	A	
小学部第2学年	発達段階に応じた学習を継続的にやり、「やってみよう」という気持ちを引き出し、日常生活に必要な「知識・技能」を育てる。	・アセスメントを活用したり、日常生活や学習場面での観察を丁寧に行ったりして、実態把握に努め、個に応じた教材教具を工夫する。	①⑧	B	<ul style="list-style-type: none"> S-M社会生活能力検査の活用を図る研修を学年内でさらにやり、子どもの実態に迫ったり、課題を把握できるようアセスメントの活用ができるとうい。 振り返りでは「〇〇が楽しかったです」の発表がほとんどで、何が身に付いたかを振り返る時間が必要。 データファイルの保存先の統一ができるとうい。 教材教具のデータの共有化ができなかった。 タブレットで学習の振り返りをする際に、学習内容を連想しやすいイラストを提示できるとよい。 ペーパーレス化になり、紙媒体でどこまで印刷するかが曖昧に感じた。職員会議等がペーパーレス化になるのであれば、学年会や略案等、Teamsで共有でもよい。
	学習のまとめで、自分でできたこと、頑張ったことを振り返る場面を設定し、成功体験が積み重ねることで、課題に取り組む意欲を育てる。	・実態に応じた課題をスモールステップで設定し、学習の振り返りでは、イラストやICT機器などを取り入れ、視覚的に分かりやすく示しながら、「できた」「うれしい」という経験を増やせるようにする。	③④⑥	A	
	グループ学習や生活単元学習などでICT機器を活用し他のクラスや学年との交流することで、集団を意識したり、自分の気持ちを伝えたりする力を育てる。	・リモート学習など感染症予防に配慮した学習形態を工夫し、発達段階に応じた基礎的なコミュニケーション手段を育て、学年の一員としての意識を高めたり、他のクラスとの交流をもったりできるようにする。	①③⑧	B	
	学年会の効率化、教材教具のデータの共有化などを図り、指導に努める。	・協議事項の時間を決め円滑に進めるようにし、作成した教材の電子データを教科ごとに保存したりして共有化を図る。	⑰⑱	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題と次年度への改善策
小学部第3学年	発達段階に応じた学習を継続的に、「やってみよう」「やってみよう」という気持ちを高めながら、日常生活に必要な知識・技能の基礎の定着を図る。	・個々の実態把握や特性の把握に努め、ICT機器等の視覚的な支援を活用し、生活年齢に配慮しながら個に応じた学習支援を行う。	②③⑤	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も映像や写真を取り入れたICT機器を活用したり、実践のできる模型等を使いながら社会生活に必要な学習支援を行っていく。 ・教師と児童での評価、児童の自己評価の場面だけでなく、友達同士での相互評価の機会を設定していく。 ・次年度も感染症予防に配慮しながら、教科等に応じた集団を形成してコミュニケーション手段を広げていく。朝の会等の司会などもタブレットを活用していく。 ・学習予定などは共有ファイルを活用していたが、児童について共通理解すべき事項は紙媒体で行っていた。今後も情報の取り扱いについては慎重に行っていく。
	学習の振り返りや成功体験を積み重ね、できたことを喜び、最後までやり遂げようとする気持ちを育てる。	・スモールステップで課題設定をし、学習の振り返りの時間を設ける。言葉とともに、視覚的にも称賛することで頑張ったことを実感できるようにする。	①④	B	
	学習や遊びをとおして、小集団で友達と一緒に活動したり、自らかかわろうとする気持ちを育てたりしながら、多様なコミュニケーション手段の獲得を目指す。	・感染症予防に配慮しながら学級以外的小集団を形成し、写真やイラスト、タブレットなども活用しながら個に応じたコミュニケーション手段の獲得を目指す。	②⑨	B	
	会議の効率化をするためにICT機器を活用し、業務の改善を図る。	・共有ファイルを活用し、紙媒体と電子データを併用しながら会議を効率よく進める。	⑭⑲	B	
小学部第4学年	発達段階に応じた学習を継続的に、「やってみよう」という気持ちを高めながら日常生活に必要な知識・技能の習得を図る。	・チェックリストを活用したり、日常生活や学習場面での観察を丁寧に行ったりして実態把握に努め、個に応じた教材教具を工夫して指導する。	③⑤	B	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の指導の内容で、じっくりと時間をかけて行いたい課題が多い。日常生活の中では時間を多くとることは難しいため、自立活動や生活単元の学習と合わせてやっていく必要がある。 ・児童ひとりひとりに合った支援ができるように教員間で役割分担や情報共有する機会を増やす。 ・学年合同で行うことが難しい授業等でもMeetを活用しながら他学級の児童とも交流する機会を増やす。 ・学年会等もTeamsを活用してペーパーレス化を行う。
	スモールステップの課題を設定し、「よくできた」「がんばった」という達成感を感じることで、最後までやり遂げようとする意欲を育てる。	・児童の課題を明確にし、個に応じた手立てや言葉かけ、できたことの可視化などをし、成功体験や感謝される体験を重ねることで、自己肯定感を高められるようにする。	①⑧	B	
	学級では学習や遊びを通して、さらに、ICT機器を活用し他のクラスや学年との交流することで、集団を意識する気持ちや自分の意思を伝える力、相手の気持ちを感じる力を育む。	・感染症予防に配慮した学習形態を工夫しながら、発達段階に応じたコミュニケーション手段を獲得したり、リモート学習をしながら学年の一員としての意識や、他学年との交流をもてるようにしたりする。	②⑨	B	
	ICT機器を活用し、教材や情報の効果的な活用を図り、業務の改善を図る。	・学年内の情報の共有、ICT機器を活用した教材教具の共有を行い、業務の効率化を図る。	⑭⑲	A	
小学部第5学年	やってみようという気持ちをもって学習や活動に取り組むことができるように、児童の発達段階や興味・関心を考慮した指導内容の充実に努める。	・児童の発達段階や興味・関心に基づいた教材・教具を用意し、主体的に学習に取り組むことができるようにする。	③⑤⑨	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の指示を待つことなく、こんな時はどうすればよかったのかが分かるように伝えていく指導の工夫をしていく。 ・Jambordを活用し、関心に沿った教材を作成して児童が主体的に取り組めたが、関心の強さから遊んでしまう児童がいたので、事前に使う方のルールを示していく。 ・注意する言葉かけが多くなってしまったので、児童の良さを抽出してすぐにほめてあげるような言葉かけをしている。 ・係の仕事や挨拶は、トークンを活用することで継続して取り組むことができたが、主体的に行う児童が少ないので目標設定を「〇〇できたら」から「自分から〇〇できたら」として主体性を高める。 ・児童の対話の機会を増やすために、ロールプレイや話し合いの場面を多く設定する。 ・学年会でTeamsやGoogleドライブを用いて共有することで業務効率化を図る。
	児童が「よくできた」「頑張った」という達成感を感じたり、成功体験を重ねたりすることで、自分でできることに自ら取り組もうとする力を育てる。	・児童の実態や課題を明確に把握し、個に応じた指導に努める。満足感や自信をもってさまざまな学習や活動に取り組む、意欲につながられるような言葉かけや支援を行うようにする。	①⑧	A	
	友達や教師とのかかわりをおして、伝えることや対話することに対する充実感を感じるとともに、相手の気持ちを考慮してかかわる力を育む。	・感染症予防に配慮しながら学級や学級以外の友達とかかわる機会を設ける。対話的な学習を行い友達や教師とかかわる機会をもつことで、人とかかわることの楽しさを感じられるようにする。また、友達の意見を聞いたり、相手の気持ちを考えて行動したりできるように、その都度確認していく。	②⑩	B	
	会議の効率化を図るため、共通理解を図る内容等を事前に回覧し共有することで、業務の改善を図る。	・検討する内容については、事前に伝えたり、文書で回覧し共有したりできるようにする。	⑭⑲	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題と次年度への改善策
小学部第6学年	「できた」「分かった」などの成功体験を積み重ねることができるように、各自の発達段階に応じた学習と活動を通して、学習内容の工夫や改善を行う。	・児童の意欲を高められるように、また、児童が「わかった」と感じられるように、各自の発達段階に応じた教材教具の活用や板書や発問の工夫を行う。	①③	A	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動はグループに分けてはいるが、重いグループになるほど、実態差が大きく、個に適した課題を用意することに難しさを感じた。前年度からの引継ぎの効果的な活用方法を見つけることや、教材を共有して活用できる環境をつくることなどが必要である。 ・ICTを十分に活用するまでではできなかった。効果的な活用方法や指導法の研修が必要と考える。 ・ICTを使って調べ学習など行える児童には、活用する場面を設けることができたが、一人で活用することが難しい児童には活用場面を設けることが難しかった。どのような活用方法があるのか研修が必要と思われる。 ・生徒の様子に関する情報交換は、放課後に行うことができたが、教材に関する情報交換や研修の時間をとることが難しかった。教材等に関する情報交換をどんな場面でやっているか、他の学年などから情報をいただくと良いと思う。
	さまざまな場面で、興味をもって自分から取り組もうとする力を育てるために、発達段階に応じた体験的な学習や、ICT機器等を活用した学習場面を設定する。	・興味関心が高められるように、今までに学んだことや体験をいかした活動場面や、ICT機器を自分で操作して理解を深める活動場면을工夫し、授業改善に努める。	②⑤	C	
	友達や教師とかかわる楽しさや社会性を育てるために、直接的なものだけでなくICT機器等も活用した活動や体験を通して、コミュニケーション能力の育成を図る。	・適切なコミュニケーション能力を育てるために、基本的な挨拶や言葉遣い、人との距離感などについて継続的に支援を行い、また、ICT機器を使った活動なども取り入れる。	②⑤⑨	B	
	学年職員間の諸会議においては、協議事項を事前に回覧したり、共有したりすることで業務の改善や効率化を図り、教材準備や児童の情報共有の時間をとるように努める。	・会議の資料をネットワークで共有し、お互いに議題を事前に把握し効率的な協議ができるようにする。必要な協議に時間を使うようにしていく。	⑰⑱⑳	B	
小学部・なのはな学級	個々のできる動きに応じた活動に取り組み、自分の身体に対しての意識を育てる。	・児童の身体全体の動かしやすさや動かしにくさを共通理解し、個々の身体に関する課題に沿った活動を取り入れるとともに、体操やダンスを通して身体に触れ、ボディイメージを育てる。	①⑤	B	<ul style="list-style-type: none"> ・体調等に応じて環境設定や支援について、その都度対応を検討し直す必要がある。特に新しい医療的ケアへの対応については、環境設定から話し合いを続けていく必要がある。 ・ICT機器については共有化が図れているが、まだ個別の教材も多い。引き続き日常的に情報共有を行っていき、共有できるものを活用していきけるような環境づくりに努めていく必要がある。
	個々の実態を把握し、興味・関心に沿った活動を行う中で、「もう一度やりたい」「楽しい」と感じられる学習場面を設定する。	<ul style="list-style-type: none"> ・五感を使った活動に繰り返し取り組みながら、やってみようとする気持ちを引き出す。 ・豊かな言語環境を心がけ、表情や発声等で意思を表出した際は言語化してフィードバックし、表出する喜びを味わえるようにする。 ・選択場面を設定し、写真や実物等分かりやすい物を提示して選びやすくする。 	①②⑤	A	
	児童にとって安心・安全な環境設定や適切な支援が行えるようにする。	・保護者、主治医、看護職員、巡回指導医、それぞれのリハビリ担当者、外部専門家(PT/OT/ST)との連携を図る。	⑧⑩	A	
	児童の情報や教材教具のデータ等の共有を円滑にすることで、業務の効率化を図る。	・児童の情報の連絡や相談は共有ノートを使いながら円滑に行い、作成した教材教具についてはICT機器を活用しデータを共有することで、効率的且つ業務のスリム化を図る。	⑰	B	
中学部	できることをもとに自分で考え、学んだことを活用しながら活動に取り組む力を育てる。	・興味関心や知的好奇心を高めるような実践的かつ具体的な活動を取り入れ、思考、判断、表現の機会を設ける。また、失敗しても大丈夫という安心して取り組める環境づくりに努める。	①⑤⑨	B	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の知識と学習して身に付けたことをさらに生かせるような授業内容や教科横断的な単元構成を考える必要がある。 ・あきらめずに考えることや解決するプロセスを学ぶ活動を取り入れるようにする。 ・学習集団の工夫で話し合いを深められるようにしたり重度の生徒に対してコミュニケーションの基礎となる応答的なかわりを継続していく。 ・ペーパーレス化を進めたり会議や行事の精選をしていき、教材研究や研修時間の確保に努めていく。
	生活の中で見通しをもつことや自分の目標に向かってあきらめずに取り組む力を育む。	・生徒の課題を明らかにし、達成可能な目標設定を行う。これまでの学びをもとに新たな見通しや課題の解決策を見出せるような学習実践を行う。	①③	A	
	各教科の学習活動や対話を通して、自分の考えをまとめたり伝えたりする力を育む。	・各教科において言語環境を整えたり意見が言いやすい雰囲気づくりに努めたりする。またICTの活用等で「伝わる楽しさ」を実感できるよう応答的な対応を行う。	②③	A	
	会議を効率的に行ったりスクールサポートスタッフへの業務依頼したりすることで業務削減につなげ、教材研究の時間の充実を図り、指導の充実を努める。	・協議事項の整理や事前の資料配付を行う。また協議事項については、事前に主任会や学年会を通して周知したり共通理解したりして効率的に協議できるようにする。印刷業務などをスクールサポートスタッフに依頼し、業務削減につなげる。	⑱	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題と次年度への改善策
中学部第1学年	自分の目標や見通しをもち、初めてのことに挑戦していくとともに、日々の生活に生かせる基礎的な学力の向上を図る。	・個別の指導計画のもとに、生徒の実態を考慮してスモールステップにより学習を進めていき、生徒が「分かった」「できた」という達成感を得られるようにする。また、各教科等の授業における生徒の実態や課題を共有し、教科間で関連した学習内容を行えるようにする。	①②③⑤	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学年全体で活動、学習する場が増やせるとうい。 ・友達とかかわりで配慮を要する生徒が複数在籍しているため、自立活動や道徳等でコミュニケーションに関する支援をさらに充実できるとい。 ・休み時間に生徒同士がかかわりあって楽しめる過ごし方を考える必要がある。 ・クラス間で家庭への連絡内容や生徒支援に差が生じないよう配慮する。 ・生徒の実態を踏まえ、教員間の共通理解をさらに図るため、話し合いの時間を設定する。
	日常生活における身の回りの事や、自分の役割に対して、自ら取り組もうとする意欲を高め、基本的生活習慣の確立を図ったり働くことへの関心を高めたりする。	・教師間で基本的生活習慣における実態や課題を共有し、共通した支援を行えるようにする。 ・クラス内での係活動や作業学習での役割に自ら取り組めるよう、活動場面や内容を具体的に提示し主体的に行えるようにする。また、職業に関わる見学や体験の場を設けたりして、働くことや社会生活について関心をもてるようにする。	④⑦⑨	B	
	友だちや教師と一緒に活動する中で、対話をととして挨拶や返事の仕方、適切な言葉遣いなどを覚え、それらを生かしながらコミュニケーション能力の基礎を育む。	・学級活動や作業学習などの場面で、意見交換や報告場面を設定し、人との正しい関わり方や意思の伝え方を示す。そして、その状況と一緒に振り返ることで、適切な方法に気付き活用できるようにする。また、個に応じた表現方法(言葉、身振り、サイン、補助具の利用など)を取り入れ、生活の中で活用していく。	③⑧	A	
	学年会を時間内に終えるようにするとともに、学年やクラスでの業務分担を整え、業務を円滑に遂行できるようにする。	・会議においては事前に協議事項の優先事項を整理し、資料の事前配付を行い円滑に進行できるようにする。各教員の仕事を考慮し、業務分担の調整を図ったり協力しやすい環境づくりを行ったりする。	⑩	A	
中学部第2学年	自分の目当てや見通しをもちながら日々の学校生活を送ることで、「やってみよう」という気持ちを育みながら、より実践的な学力の育成を図る。	・学習内容や目標について生徒が見通しをもつことができるよう、本校の板書についてのガイドラインを参考にしながら板書を工夫したり、個に応じた提示の仕方を工夫したりする。各授業においては、基礎・基本の学力を活かしながら日常生活に根差した内容を行えるようにする。	①③	B	<ul style="list-style-type: none"> ・国教においては各学習グループで生徒の実態に沿った学習に取り組んだ。今後さらなる実態把握に努め、3つの柱に沿って適切な目標設定および評価を行えるようにする。 ・学校生活での教員や生徒同士のコミュニケーション能力のさらなる向上を目指し、年間指導計画に沿って自立活動のさらなる充実を図る。 ・生徒の行動に対して、原因の分析や心理的背景など教員間で共通理解を図り、今後も積極的な生徒支援を行っていく。 ・学年会等の会議や打合せでは、今後もさらにICT機器を活用し、業務の効率化を図っていく。
	学校生活の中での「わかった」「できた」を増やし、各授業や係活動等で達成感や自己肯定感を感じられるようにすることで、自ら取り組もうとする態度を育成する。	・一人ひとりのできることを増やし、できたときには称賛したり、感謝の気持ちを伝えたりするとともに、身に付いた知識や技能を活かせる学習場面や日常の生活場面を設定する。	①③⑤	A	
	「挨拶」「返事」「言葉遣い」「他者との適切な距離感」を意識して生活することで基礎的なコミュニケーション力の向上を図る。	・生活年齢を考慮した中学部生として相応しい態度で生活することができるよう、日々の生活の中や各授業時間で挨拶や返事、言葉遣いについての意識や意欲を高めるとともに、作業週間報告会等の他学年の生徒の様子を知る場面を設け、2年生としての立場などに気付けるようにする。	③⑤	B	
	学年会の議題を回覧やアンケートで議題を省略したり時間を50分以内に終わらせたりする。学年間やクラス間で教材準備や学級運営にかかわる仕事の分担を行い、業務を円滑に遂行できるようにする。	・学年会では、協議事項を円滑に進められるよう、事前に回覧が可能な資料や文書については予め周知や共通理解を図るとともに、仕事分担の調整を図ったり、協力しやすい環境づくりを行ったりする。	⑰⑱⑳	A	
中学部第3学年	個々の発達段階や特性に応じた学習指導の充実を図ることで、生徒が目標や見通しをもって様々なことに挑戦しようとする力、授業で得た知識を生活場面で活用する力を育成する。	・生徒一人一人の特性や発達段階について個別の指導計画等を十分に活用し共通理解を図る。また、将来に向けた課題の共有化を図り、生徒の課題や手立て、評価についての意見交換を活発に行い、より適した支援に取り組んでいく。	①⑤⑨	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導やキャリア教育において、発達段階に応じた指導支援を更に最適な状態で行っていくため学年全体で、細かい課題の共有、評価改善をしていく必要がある。 ・学年会では、クラウドでの情報伝達を効果的に活用して時間短縮を図ったが、時間が過ぎてしまうことがあった。各議題等の目標の時間を設定し会議時間の短縮を図る。 ・業務を明確にし、業務を平準に分担していく必要がある。
	様々な体験を通して自己の特性や課題を知り、自己肯定感を育むことで、できることに自ら取り組もうとする態度を育む。	・学習場面や各行事を通して、生徒が自分で考えて行動したり、振り返りをする機会を多く設定したりする。成功体験の積み重ねができるような環境づくりに努め、自己肯定感を育めるようにする。	①③	A	
	各教科の学習活動や対話を通して、自分の気持ちや考えをまとめたり、伝えたりする力を育む。	・各教科の授業において言語環境を整えたり、みんなが発言しやすい雰囲気づくりに努めたりする。また、ICTの活用等で、「伝え合う楽しさ」を実感できるようにする。	②③	A	
	学年会の時間を50分以内に終えることができるようにするとともに、学年間やクラス間で教材準備や学級運営にかかわる仕事の分担を行い、業務を円滑に遂行できるようにする。	・学年会では、協議事項を円滑に進められるよう、事前に回覧が可能な資料や文書については予め周知や共通理解を図るとともに、仕事分担の調整を図ったり、協力しやすい環境づくりを行ったりする。	⑱	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題と次年度への改善策
中学部・なのはな学級	個々のできる動きに応じた活動に取り組み、自分の身体に対しての意識を育てる。	・生徒の身体全体の動かしやすさや動かしにくさを共通理解し、個々の身体に関する課題に沿った活動を取り入れる。 ・言葉かけをしながら身体に触れ、ボディイメージを育てる。	①⑤	B	<ul style="list-style-type: none"> ・個々のできる動きに応じた活動の時間をより確保し、引き続き自分の身体に対しての意識づけをしていく必要がある。 ・思春期をむかえ、身体の変化が著しい時期であるため、保護者や主治医等と連携を図りながら環境設定や支援をしていく必要がある。 ・ICT機器については、共有化が図れている面もあるが、個々のレベルで行っていることが多い。今後、ICT教材のレベルアップを図り、それぞれの個別課題や日常的な授業に般化し、共有して活用していけるよう努めていく必要がある。
	個々の実態を把握し、興味・関心に沿った活動を行う中で、自分の感情や意思を周りに伝える力を育てる。	・五感を使った活動に繰り返し取り組みながら、自ら行おうとする気持ちを引き出す。 ・豊かな言語環境を心がけ、表情や発声等で意思を表出した際は言語化してフィードバックし、表出する喜びを味わえるようにする。 ・選択場面を設定し、意思表示がしやすいよう写真や実物等分かりやすい物を提示する。	①②⑤	A	
	安心・安全な環境設定や障害の状態に応じた適切な支援を行う。	・保護者、主治医、看護職員、巡回指導医、それぞれのリハビリ担当者、外部専門家(PT/OT/ST)との連携を図る。	⑧⑩	A	
	生徒の情報や教材教具のデータ等の共有を円滑にすることで、業務の効率化を図る。	・共有ノートを使いながら生徒の情報交換や連絡、相談を円滑に行う。また、ICT機器を活用することで教材教具を共有し、業務のスリム化・効率化を図る。	⑰	B	
高等部	ライフステージの変化や困難に立ち向かう粘り強さ、逞しさを育てる。	・生徒が抱える困難さに寄り添うことで、乗り越えるために必要な思考力やその転換力、自己肯定感の形成を図る。	①⑤⑨	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒自身が、困難を乗り越える方法を会得していくためにも、生徒一人一人の目線で寄り添い共に考える姿勢を継続する。 ・生徒が学習のねらいや自分の課題を明確に理解できるよう、学習環境の調整や、学習内容の整理を行っていく必要がある。 ・様々な人とかわりながら生きる力や関係構築の方法を学ぶために、コロナ対策を講じながら学習活動の集団編成を工夫し、共同する場面を増やしていかるとよい。 ・学年会・コース会における協議が学部に反映できる体制を継続していく。より見通しをもって協議することで、会議の効率を上げていく。
	生徒が自らの目標や課題を理解し、学習活動に取り組もうとする行動力を育てる。	・生徒の特性や発達段階を適切に捉え、目標・課題を明確化、習慣化することで、生徒自身の課題意識や理解につなげる。また、生徒にとって手が届きやすい達成可能な目標・課題設定を行うことで、意欲や行動の持続を図る。	①③⑤	B	
	地域社会における生活を見据え、生徒が自らの方法で思考を表し、他者と共同・協同しようとする対人力を育てる。	・教育活動全般において、自他を認め合える関係構築や目的に応じた集団形成に努めることで生徒の言語環境を整備し、思考を伝え合う有効性や楽しさを味わえるようにする。	①②⑦	B	
	部内のコミュニケーションを活性化することで、会議効率や業務の改善を図る。	・主任チーフ会を定期開催することで、円滑な学年会・コース会につなげる。また情報共有ツールを活用することで、協議内容の整理やペーパーレス化、効率化を図る。	⑱	A	
職業自立	生徒自らの長所短所や将来の在り方など、自己理解を深めながら主体的に生徒自ら、進路選択や進路決定ができる力を育てる。	・進路指導部と連携を取りながら、体験的な校内・現場実習などの充実を図ることで、個々の生徒が望ましい「勤労観・職業観」を育み、自らの進路に対する関心・意欲を高め、日々の学習に置いて主体的に進路選択することができるようにする。	⑦⑧	B	<ul style="list-style-type: none"> ・現場実習やデュアル型実習、校内実習を通じて、進路に対する意識を高めながら日常の学校生活へ反映させていくことが必要である。また、学習の中で実習の場面を想定した具体的な内容をどのように取り入れていくかが課題である。 ・作業学習での準備や片付けについて、作業リーダーが中心となり生徒達自身で役割分担を率先して決めたり、自分から役割を果たそうとする場面が見られたりするようになった。今後は、作業面だけでなく、仕事をするうえで必要なコミュニケーション面においても、一緒に働く同僚に対して、同じ立場として言葉遣いや思いやりといった、人間関係の形成にかかわる部分を伸ばしていく必要がある。 ・作業学習においては、外部講師に教えていただいた作業方法を参考にしながら、校内作業(窓・床・階段・水回り)を繰り返し行った。個々のスキル向上へ向けて今後も連携をしていく必要がある。 ・授業の略案の共有など、授業準備について、ICTを活用し、打ち合わせ時間の大幅な短縮につながった。今後もさらなる業務スリム化へ向けて工夫していく。
	充実した生活をするため、必要な金銭感覚や余暇の過ごし方、また衣食住に関連する内容を知識・技能を国語科、数学科、職業科、家庭科の時間に重点的に取り組み、一人一人の発達課題や障害の特性、心身の状態や実態に応じた学年段階で工夫し、学習環境を整え、外部専門家との連携も取り入れながら、自立活動の視点を踏まえた指導を行う。	②⑤⑧			
	集団活動の中で「今の自分にできることは何か」について考え、適切な場面で役割を担う責任感や行動力を育てる。	・学級活動、係活動、清掃活動、学年内のチーム活動等をとおして、各学年の生徒がそれぞれの役割を理解し実践できるように、学年間で系統性をもった授業計画を設定し、その都度課題達成状況から見直しを行い、適切な課題設定をする。 ・作業学習や校内・現場実習などにおいて、「①目標設定→②学習→③反省→④改善」を行い、生徒自身にフィードバックできるよう、タブレット端末などを用いて記録した動画やデータ入力した資料を活用し、自己評価をしたり、課題を明確にしたりする場を設定し、改善策の話合いの機会を設ける。また、サービス班の受注業務においては、年間100件の受注達成を目指す。	②⑨	B	
	自己の個性を発揮し、活動の充実を図るとともに、課題や問題に対し前向きに捉え、漸進的に解決しようと取り組むことができる力を育てる。	・挨拶や返事、身だしなみ、言葉遣い、マナー、食生活、生活習慣等についての個々の課題を明確にし、国語科、数学科、家庭科、職業科などの教科学習や個別指導において重点的に取り組み、学校と家庭でお互いの役割を確認し、連携し共通理解を図り支援を行う。	②③	B	
	定例会議について、会議案件によって実施の有無や実施方法を変えたり、クラウド機能を活用しながら授業の打ち合わせを行うなど業務の効率化を図る。	・会議案件について事前に内容を精選し、MEET会議やgoogleドライブ等で検討事項の精選や会議時間の終了目標時間を予め設定し、効率化を図る。	⑤⑰⑱	B	
			⑱	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題と次年度への改善策
職業基礎	将来の職業生活・家庭生活を具体的にイメージできるように、キャリア教育の充実に努め、社会生活に必要な基礎的な知識・技能・態度の育成を図り、働く意欲を育むために得意な活動・苦手な活動を自己理解するための環境を整える。	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭生活・職業生活に必要な衣食住に関する基礎的な知識・技能を職業科や家庭科の時間に重点的に取り組み、実態に応じたグルーピングで学習環境を整え、自立活動の視点を踏まえた実生活に生きる指導を行う。 ・進路指導部と連携しながら、一般就労(一般企業・特例子会社)・福祉的就労の基礎的な知識や働く意欲を育むとともに主体的に進路選択できるよう、実習の充実に図る。また、公共の交通機関を利用した校外学習を年間1回計画実施し、卒業生の働いている現場や様々な職種に関する現場を見学することで、進路選択の一助とする。実習先で提示された課題について、学校で取り組める具体的な目標をたてるための事後学習を行い、苦手なことをスモールステップでとりくめるように場の設定を行う。 	①②⑤⑧	B	<ul style="list-style-type: none"> ・現場実習やデュアル型実習、校内実習を振り返り、家庭での役割や生活習慣を考えることで、働く(実習)ことにおける家庭生活の在り方に見直しをもち、洗濯や掃除など衣食住に関する基礎的な知識・技能を身に付けることができたが、社会人としての家庭生活を捉えるための学習に関しては、より具体的な生活をイメージできるような支援が必要。また、一般就労や福祉的就労に関する基礎的な知識を学ぶことで、現場実習に向けて、生徒一人一人が必要な力や目的・目標を明確にすることが課題。今年度、校外学習は実施できなかったが、3学期には、卒業生に依頼して、講話を聞く予定。進路学習における学年の系統性については、年間指導計画上の時期や位置づけについて検討が必要。 ・作業学習においては、上級生と下級生をペアもしくはグルーピングすることで、教える立場・教わる立場を意識して、コミュニケーションを取る場面が増えた。今後も活動を終えた時の達成感を自己肯定感につなげることができる学習形態の工夫が必要である。 ・学級や係活動・清掃活動において、生徒同士話し合い・相談の場面を設定することで、自ら意見を出し合う場面が増えた。また、振り返りの時間を確保することで、その反省を次に活かす活動に取り組める場面が増えた。その反面振り返りの時間確保のために活動時間が短くなってしまったため、授業計画の調整が必要である。 ・会議の目的を分け、短時間・小グループ(各学年担当者)での打合せ・協議を重ねることで、コース会会議時間の短縮につながった。全体での会議は伝達が中心になってしまったため、1回の会議で1つの協議に焦点を当て、時間を決めて話し合いの場を設けることが必要。
	上級生や下級生とのかかわりの中で、好ましい人間関係の基礎を育み、お互いを認める力や学び合うための基本的なコミュニケーション基礎を高めるとともに、話し合いの中での自己選択や意志決定するための自律する力を育む。	<ul style="list-style-type: none"> ・作業学習において、生徒の自己肯定感を高めるために、生徒の実態に応じた適材適所の作業班編成を行い、責任をもって活動できるよう生徒同士でチェックシートを活用して、指摘・確認・反省・改善ができるようにする。上級生と下級生との学び合いの場を設け、関わり合いの中からお互いを認め、自己肯定感を高められるように指導する。 ・学級活動、係活動、清掃活動、学年内のチーム活動等とおして、生徒同士話し合いの場を計画的に設定し、課題解決に向けて、生徒同士が意見を交換する場を設ける。話し合いの中から、決定した内容について、計画・実行・振り返りの場を設けることでPDCAサイクルの基本となる考える力を育てる。 	①②③④⑤		
	豊かな職業生活を営むことができるように、対話を通して、社会生活に必要な基礎的な知識及び望ましい態度を生徒同士で気づき学び合うことができるような場を設け、その中から望ましい生活習慣の基盤作りの力を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・社会生活に必要な「挨拶」「返事」「報告」「連絡」「相談」など、基礎的なコミュニケーション能力を育てられるよう、作業学習・職業科の時間にその機会を計画的に設定する。また、作業製品販売計画において、コースとして年間3回以上の販売機会を計画し、実施する。上級生から下級生に対して、作業技術や態度面に関する助言の場を設定し、生徒間でお互いに伝え合う基礎的なコミュニケーション能力の向上を図る。 	①②③	B	
		<ul style="list-style-type: none"> ・トレーニングを通して、5分間以上一定のペースで走り続けられる体力の向上やダンスなどの有酸素運動を行う体力の向上を図る。自立活動では、話し合いやディベートの授業でお互いの意見を尊重し意見交換するための基礎的なコミュニケーション能力を高め、日常生活全般で必要とされる情報交換や調整能力の基礎を養う。 	①②⑤	B	
	作業担当者会・コース会議では、会議システムを活用し、会議に必要な資料や情報の共有を行ったり、授業に関する打合せを担当者間で会議前に実施したりすることで、会議の効率化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・協議・検討事項の内容・目的を明確にするために、会議を分けて設定したり、会議システムの活用で業務の効率化を図る。担当者間の打ち合わせを短時間で、複数回設け、意見交換などの場を増やすように設定する。会議進行に際しては、会議の終了時間を明確に提示したり協議事項の優先順位・範囲を決めたりして会議の効率化・1回の会議時間の短縮を図る。 	⑰⑱⑳	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題と次年度への改善策	
生活自立	将来の生活をイメージできるようにキャリア教育の充実にも努め、個に応じた学習や体験的な学習などをとおして、様々な課題に自ら挑戦しようとする態度や働く上での基礎的・基本的な知識・技能の習得を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の習熟度等に応じての学年ベースのグループを編成をしたり、生徒の特性に応じた自立活動の区分ごとのグループを編成したりして、個に応じた細かい指導を行い、基礎的・基本的な知識・技能の習得を目指す。 理科授業や英語活動などを生徒が興味、関心がある内容で構成した体験的な学習を実施し、進んで実験や活動などの課題に挑戦し、知識の習得を図る。 	⑥⑧⑮	B	<ul style="list-style-type: none"> コロナの感染状況に応じて、作業学習と体育を縦割りで実施した。国数は、習熟度に応じて学年でグルーピングする方が望ましいが、自立活動と音楽は、学習形態に検討が必要。 個に応じた指導として、タブレット端末のアプリやタイマー、イラストなどを効果的に使用することで、生徒が課題に取り組むことができた。今後さらに多くの場面でICTを活用した実践を行い、学習効果を高めしていく必要がある。 	
	生徒の自己肯定感を高め、各活動に進んで取り掛かり、自分の課題に対して最後までやり遂げる力を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 朝の一連の活動(着替え、個別学習、トレーニング、朝の会)や各授業において、開始時間を守り、集団でのルールを守りながら最後までやり遂げることができるように、タイマーやイラストや映像などの視覚的教材を示したり、個に応じた教材を提示したりしながら定着を図る。作業学習においては、1工程ごとに拡大した手順表を提示することで一人で取り組んだり、教師が称賛することで、自己肯定感をもてるようにしたりする。 	②④	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 学習評価尺度として、S-M社会生活能力検査を活用しながら、身に付いている力や身に付けさせたい力を明確化する。 Teamsに教科ごとに引継ぎのファイルを設けることで、データ共有を進めていく。また、会議の半数をデータの閲覧や回覧にし、業務の効率化を図っていく。
	自分の考えや意見を伝えたり、身の回りのことを整えながら生活したりすることができるように、社会生活に必要なコミュニケーション力や自分の物の管理能力などの向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 自分から場に応じた丁寧な言葉で挨拶、返事、支援依頼、報告等の発信を相手に聞こえる声量で伝えたり、各授業で使用したプリントなどを教科ごとにファイル管理したりできるように、場面を設定した繰り返しの指導で定着を図る。 	③④	B		
	コース会の効率化と教材やデータの共有化を行い、業務のスリム化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> コース会の前に各学年の担任間や各教科チーフに議題を提示し、予め検討する機会を設ける。 教材室を作業種や教科ごとに教材を配置したり、教材のデータフォルダを作成したりして、瞬時に必要な教材を探して使用できるようにする。 	⑮⑰	A		
生活基礎	日常生活や学習活動の中で、自己選択、自己決定し、将来の生活の中で活用できる力を育む。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒に学習活動や内容を提示する際は、自ら意思決定しやすいようにいくつかの選択肢から選ぶ活動を多く設定する。また、支援についても、コース会で情報交換するようにする。 興味関心を引き出し、自らチャレンジしてみようとする、感覚的、体験的な学習内容を設定する。 	①③	B	<ul style="list-style-type: none"> 授業の中で、意識的に選択の機会を設けることで、教材や画面を注視したりタッチしたりして意思表示できる場面が増えた。今後も日常生活や学習活動内で、自己選択や自己決定できる場面を多く取り入れていく。 栄養教諭による授業を実施し、給食について体験的な学習ができ、効果的であったため今後も同様の体験活動を重視した単元計画を年間指導計画に位置付ける。 模倣をしたり、手話を使ったりして他者とのコミュニケーションをとろうとすることができた。今後、ICT教材などの研修を重ね、生徒の課題に徹底させたい。 	
	基本的生活習慣の確立を目指して成就感、達成感を多く経験することで自己肯定感を高め、最後までやり遂げる態度を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 他者の支援を受け入れながら、20分以内で着替えをしたり、持ち物の管理をしたり身辺処理を行うことができるよう、環境を整えたりスモールステップで取り組めるよう支援したりする。 	④⑨	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 生活単元学習、美術は3年間の学習計画を立てたことで、準備にも見通しをもち、計画的に授業を実施することができた。今後は他の教科等でも系統性を意識した年間指導計画の作成を行う。
	友達や教師とのかかわりの中で、適切なコミュニケーション手段を獲得し、生活の中で活用できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活の中で、他者への伝達手段を発語だけでなく、必要に応じてICT教材やカード、サインなどで伝えられたり、他者からのかかわりをスムーズに受け入れることができるよう、信頼関係の構築や繰り返しの指導で定着を促す。 	②③	B		
	コース内で3年間の見通しをもった学習計画を立てることで、学習活動の充実を図るとともに、業務の効率化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 毎年度繰り返しが必要な学習内容、年度でステップアップしていく学習等を精選し、見通しをもった教材研究をすることで、学習活動の充実を図るとともに、業務の効率化を図る。 	⑰⑱⑳	A		
	個々のできる動きに応じた活動に取り組み、自分の身体に対しての意識を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の身体全体の動かしやすさ・動かしにくさを共通理解し、個々の身体に関する課題に沿った活動を取り入れるとともに、体操、ストレッチを通して言葉かけをしながら身体に触れてボディイメージを育てる。 	①⑤	B		<ul style="list-style-type: none"> 生徒が登校した際には、体操などを積極的に行うことができた。生徒が自分自身で体を動かすにあたり、どのように支援したら動かしやすいのか等をより深めて共通理解していく必要がある。
個々の実態を把握し、興味・関心に沿った活動を行う中で、生徒が自主性を持ってできる学習場面を設定する。	<ul style="list-style-type: none"> 五感を使った活動に繰り返し取り組みながら、自ら行おうとする気持ちを引き出す。 豊かな言語環境を心がけ、表情や発声等で意思を表出した際は言語化してフィードバックし、表出する喜びを味わえるようにする。 選択場面を設定し、写真や実物等分かりやすい物を提示して選びやすくする。 	①②⑤	A	B	<ul style="list-style-type: none"> PTの先生と連携を取りながら行っているが、肢体不自由の生徒に対して感覚・触覚が味わえる教材を用意して興味や関心を広げたり、より広く活動する環境などを整えたりできると良い。 	
生徒にとってよりよい環境設定や適切な支援が行えるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 保護者、主治医、看護職員、巡回指導医、それぞれのリハビリ担当者、外部専門家(PT/OT/ST)との連携を図る。 	⑧⑩	A		<ul style="list-style-type: none"> なのはなとして児童、生徒の様子は共有のノートを活用して把握を行っているが、ICTを使っている教材教具は共有できている所もあるため個々の指導内容によって異なることもあるため共有できていないところもある。今後、ICT教材のレベルアップを図り、それぞれの個別課題や日常的な授業に一般化し、共有して活用していけるよう努めていく必要がある。 	
生徒の情報や教材教具のデータ等の共有を円滑にすることで、業務の効率化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の情報の連絡、相談は共有ノートを使いながら円滑に行ったり、作成した教材教具についてはICT機器を活用し、データを共有することで、効率的且つ業務のスリム化を図る。 	⑰	B			
高等部・なのはな学級						